



第166回やすらぎの会通信

令和6年1月20日(土)実施

通信をご愛読の皆さん、本年もどうかよろしくお願いいたします。正月明けに能登地方を中心にまさかの大きな地震と津波が発生しました。主要道路が寸断し、陸の孤島となってしまいました。それでも、石川県内からはもちろん全国から救援隊が駆けつけ、最大限の救援活動をしていただいております。我慢強い能登の人達にも疲労と我慢の限界が来ているようです。私事ですが、能登には私の実家があり大切に管理してきましたが、無残な姿になり大変衝撃を受けております。ただ、今年の正月は松任で迎え家族全員無事でした。

学校に行きたいのに行けない？

【中学生の事例】

ある朝、朝食を食べていた中学3年生の娘が急に涙を流し始め、「何だかよく分からないけど、悲しい。学校へ行きたくない!」と言いました。私の子育てのどこが間違っていたのでしょうか？これから何をしたらいいのか、私にはさっぱりわかりません。

「学校へ行けない」と訴える子どもに、「怠けないで学校へ行きなさい!」と叱ったり、「早く学校に行きなさい!」と無理やり登校させたりしていませんか？親のその言葉が、子どもをさらに傷つけることになります。子ども自身も、「学校へ行かなくてはならない」ことはよく分かっています。それでも行けない、本人にも分からない何らかの状況が潜んでいることがあります。家庭でも身も心も休め、気持ちを安定させてあげることが大切です。

子どもが不登校になると、親は不安にかられて理由を問い正したり、厳しく登校を促したりします。そうした親の姿勢は、「学校へ行かなくてはならない」と分かっている本人を追い詰め、ますます心を閉ざしてしまうことになりかねません。家庭では焦る気持ちを抑えて本人のペースに合わせる姿勢が大切です。学校に行けなくなった背景には、同級生、教師、家族などとの葛藤が潜んでいることがよくあります。

これらの人たちとリラックスして付き合える状況を作り出す機会を作っておくことには大きな意味があります。そして、不安で追い詰められている気持ちを少しでも楽にして、心の疲れを癒してあげることが大切です。今までの自分を振り返り、この先どうしたらよいか、自分でも考えるようになります。不登校に陥る子どもたちには、完璧主義で自信のない子どもが少なくありません。

そうした子どもたちが、「欠席するよりも、遅刻や早退の方がいい」と柔軟に選択できるように、親子で一緒に考えてみることが大切です。焦らず、本人のペースで、できることからやってみましょう。さらに、担任の先生との緊密な連携が欠かせません。不登校の子どもが何とか登校した時に、担任やクラスメイトが温かく迎え入れる学級であることが、不登校の子どもが回復していくための重要なポイントになります。



通信をご愛読の皆さん、いかがお過ごしでしょうか？能登の大震災という厳しい年明けとなりました。10月号から、自書の『不登校だっていいじゃないか』（アントレックス社、2016年）を少しずつ紹介しております。なお、通信の送付が必要でない方は、高（090-8265-3968）まで電話かショートメールでお願いします。2月の学習会は、17日（土）13時から白山市出城公民館（076-276-1286）で行います。

「子どもが進む道を親子で共に考える」



不登校は時間が解決してくれるのを待つのが最良の方法とよく言われますが、放っておけばよいというわけではありません。要は、関わり方の問題なのかもしれません。「いつも自分に関心を持ってくれている」「いつも見つめてくれている」と感じることで、子どもは勇気を得たり、前向きな生き方ができるようになったりするのです。

今後、不登校が解決するにしても、長引いてしまうことになっても、親子の関係は決して変わりません。したがって、この先ずっと子どもに愛情を注ぎ続けるのが親の役割ということになります。お腹を痛めて子どもを産んだお母さんの無償の愛に比べ、外に出て働くことが多いお父さんは、子どもといつもべったり一緒にいることはなかなか難しいようです。

お父さんは、家で一緒に居られる時に、いかにして子どもに愛情を注いだらいいのか、愛情を受け取る側の子どもの目線に立って考え、工夫する必要があります。いずれにしても、不登校になった子どもに、どこまでも寄り添って生きる覚悟が親に求められます。そして、本人が元気で生きているのなら、それが問題解決の原点です。

学校に戻る以外の道についてもいろいろな情報が得られます。怠け傾向の不登校もありますが、怠学の不登校と把握されたものが、実はうつ病などの精神疾患や発達障害によるものだったり、さらに従来のタイプ分けではとらえ切れないものも見られるようになってきています。いずれにしても、様々な要因が重なりあって不登校は生じます。不登校になってしまった親子の目標は、あくまでも子どもの自立なのです。

様

初春の候、皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。能登半島の大震災という厳しい年明けとなりました。

震災に遭われた大人もさることながら、同じく震災に遭った子どもたちの心のケアが求められています。いつもやすらぎの会にご理解・ご支援をいただき、誠にありがとうございます。このたび、第166回やすらぎの会通信ができあがりましてので、ご覧いただければ幸いです。

2月分の定例学習会は、別紙の通りです。近年、親の学習会が多く立ち上がり、参加者の分散化が進んでいるようで、学習会参加者は減少傾向にあります。しかし、親の会に参加された皆さんのお子さんが少しずつ元気を取り戻している様子をお聞きすると、同じ目線で一緒に考える親の会の意義・役割を痛感しております。

もし皆さんのお知り合いの方が、お子さんの不登校で苦んだり、悩んだりしておられるようでしたら、お声をかけていただければ幸いです。予約なしでも参加できますので、お気軽にお越しいただけるとたいへん嬉しく思います。親の会では、きつと何か得られるものがあると信じております。どうかよろしく願いたします。

令和6年1月24日

やすらぎの会代表代行 高 賢一

お 誘 い

代表：山 美弥子

「やすらぎの会」の2月の学習会は、下記の通りです。
お気軽にお越しください。お待ちしております。

日 時：令和6年2月17日（土）
13時～17時

場 所：石川県白山市立出城公民館
（白山市成町406）

アドバイザー：金沢学院大学 高 賢一 特任教授

連絡先：高（山代表代行）090-8265-3968

一人で悩まないで、

みんなで助け合いましょう。

ちよっと覗いてみませんか！

